

田尻だより

平成 17 年

10月号

Vol. 31

次回の田尻便りは
11月発行予定!

紅葉の候、田尻では一斉に稲刈りが始まりました。

小野寺家では、他の農家の稲刈りや乾燥調整といった農作業の請け負いも行っているのですが、この時期は本当に本当に忙しいです。新米の出荷が始まると、それこそ体がいくつあつても足りません。

9月、田んぼの水が落ちると、ニホンアカガエルが姿を見せなくなります。



(トウキョウダルマガエルやアマガエルは、まだまだたくさんいます)

「イナゴとり」

お父さんや皇貴君が子供の頃、秋の学校行事としてイナゴとりがあつたそうです。授業が3日間休みになり、その間、各自田んぼでイナゴを獲るそうです。休み明け、獲つてきたイナゴを先生が計量します。計量したイナゴは売られ、生徒会費となつて、学校の備品の購入などに当てられます。また、たくさんイナゴをとった人には、

ノートや鉛筆、図書券など、賞品もあつたそうです。

お父さんたちが子供の頃は純粋にイナゴの量を競い合つたそうですが、皇貴君や荒川たちの代になると、一人何キロ以上といったノルマ制になつていたようです。子供達の変化もあるでしょうが、その頃にはだいぶイナゴが減つていたのでしようね。

田んぼの中は、イナゴやバッタ、トンボ、カマキリなど、昆虫たちの王国になります。



(これはイナゴ)

未 暦 ~こめごよみ~

- 9月13日 生き物調査をしました
- 9月22日~ 稲刈りが始まりました
- 9月29日 生き物調査をしました

去年は豊作の年でしたが、今年は平年並みの作柄となりそうです。

嫁日記

ついに稲刈りの季節に突入です。稲刈りが始まると、もみの表面に生えている微細な毛が粉塵となって舞上がり、この時期独特の粉っぽい空気が漂います。

小野寺家では色々な農家の稲刈りや乾燥調整の仕事を請け負うので、色々な田ん

ほのもみが倉庫に来ますが、小野寺家のもみは一目見ただけですぐに分かります。

慣行農法の人のもみはとてもきれいで作業もしやすいですが、小野寺家のもみには色々な雑草が混ざっていて、イナゴや虫が次々に飛び出してきました。本当に、全く違うんだなああと、つくづく感心させられます。